

よく分かる性感染症（４）：高まるウイルス感受性—H I Vの危険性増大（中国新聞 12面 健康・医療 H19年2月14日水曜）

Q 性感染症にかかるとエイズの危険性も高まるって聞いたのですが。  
（18歳、高校生）

A 感染源、感染経路、感受性のある個体（「感染しやすいカラダ」と言い換えることもできます）を感染の3原則といいます。これは性感染症に限らず、あらゆる感染症に共通して言えることで、この3原則がすべてそろったときにだけ感染が起こります。インフルエンザを例にお話ししましょう。感染源はもちろん、インフルエンザウイルスに感染したヒト。感染経路は、咳やくしゃみ、しかし、インフルエンザがはやったとき、感染する人とならない人がいます。これは遺伝的に感染しにくい体質であったり、その時の健康状態などが関係するのですが、これが感受性の違いということなんです。思い起こせば、僕自身には学級閉鎖の経験がありません。学級閉鎖には、あと数人の不足でした。放課後、学級閉鎖された別の教室に入って深呼吸を繰り返して帰宅しても、翌朝、発熱も咳が出ることもなく、登校を余儀なくされた悔しい思い出があります。僕はウイルスに対する感受性が低かったのです。エイズも同様です。言うまでもなく感染源はエイズウイルス（H I V）に感染している人です。国連合同エイズ計画は2005年末の全世界のH I V感染者が推計4030万人に達したと報告してい

ますから、H I V感染者は地球上に150人に1人くらいの割合でいることとなります。

感染経路には注射の回し打ちや血液などもありますが、性交が大半をしめています。感受性を高めてしまう最大要因は、性感染症になること。イタリアの研究には、H I Vに感染する危険性は、外性器にイボが出る尖圭コンジローマでは約11倍、クラミジアでは約3倍とあります。性器がもろくなってウイルスが侵入しやすくなるからだと言われています。3原則のうち1つでもブロックできれば、感染予防が可能です。セックスをしないことが最も有効な予防法であることは言うまでもありませんが、セックスを避けられないというのであれば、コンドームを最初から最後まで使い通すことです。こうした感染の科学を身につければ、エイズを含めた性感染症を防ぐのは、そう難しくはありません。(日本家族協会クリニック所長 北村邦夫)